

区分	備考	開責	学期	科目名	クラス	担当者	単位	内容
デジタルヒューマニティズ科目 (6単位以上選択必修)		先端	後期	デジタルデザイン	C	稲葉 光行	2	人文社系の研究者を対象として、コンテンツ指向の視点から、Webデータベースのデザインと実装に関する手法について学ぶ。
		先端	後期	デジタルデザイン	C	赤間 亮	2	人文科学の研究に必要なデータベースの開発・運用能力を身につけるための実習型、ディスカッション型講義です。
		文	後期	テキスト情報の処理	L	田中 省作 他	2	この授業では、新しい人文科学研究の道具となるコンピュータ、そして知的情報処理技術を駆使したテキスト情報処理の基本的な分析方法について学ぶ。
		文	前期 集中	デジタル・アーカイブ	L	高瀬 裕	2	文化遺産の3次元デジタル化を中心とするデジタルアーカイブを主要テーマとして、事例のスタディをまじえながら、最新のデジタル化技術、ビジュアライゼーション技術(CG、VR、インターネット)などを学び、各自の専門分野への利用について考察する。
		文	後期	デジタル・アーカイブ	L	高瀬 裕	2	立命館大学で実施中の研究に連携した京都のデジタルアーカイブに関連する研究テーマを設定し、講義と実習を通じて具体的な研究テーマの計画、調査、制作、成果のまとめ、発表までの一連のプロセスを体験的に学ぶ。
		理工	後期	画像メディア特論 1	00	仲田 晋	2	本講義では、画像メディア技術のうち、コンピュータグラフィックス・可視化・シミュレーション・グラフィックスハードウェアに関連する技術を紹介する。特に補間技術・曲面モデリング・波の表現・ボリュームデータの可視化について、計算アルゴリズムとその実装を含めて学習する。
		理工	前期	画像メディア特論 2	00	徐 剛 他	2	The objective of the course is to introduce students to the basic issues involved with pattern recognition and image-based rendering. This course will be mainly focused on linear discriminant functions, Bayes-theory, unsupervised learning, PCA and LDA based feature selections, panoramic image composition, quick-time VR, plenoptic function, light field, etc. In the latter half of the course, students will be divided into a few groups, each group coding a part of a panoramic stitching program.
		文	後期	学芸員のためのデジタル技術	L	塚本 敏夫 他	2	学芸員のためのデジタル技術 L では、学芸員が扱う文化財(標本資料)の持っている情報を抽出し、デジタル化する技術について学習し、取得したデジタルデータを数理統計学や情報処理技術を利用して人文科学研究へどのように応用し、そのデジタルデータを博物館、美術館等で、どう活用し、発信していくかについて実際の研究事例を中心に学習する。
		理工	前期	自然言語処理特論	00	福本 淳一 他	2	自然言語処理に関する基礎的な理論やモデルおよび応用技術について学ぶ。
		文	後期	人文科学の主要問題 (講義)	LA	高橋 晴子	2	今後の情報化社会においては、人文科学に関する研究テーマを著書や論文の形式ではなく、データベースやデジタルアーカイブのかたちで表現するほうが適切な場合、あるいはその必要性が出てくる場合がある。本授業では、そのための研究方法を学ぶことを目的とする。
	文学研究科 の院生のみ 受講可	文	前期	人文科学の主要問題 (演習)	LA	富田 美香	2	本科目の目的は、映像学部教学と関連性の高い企業・団体でのインターンシップ研修を通して、映画・映像とその文化、技術の創造に関する、現場での実践知、技量、主体性の体得にある。
		文	前期	人文科学の主要問題 (演習)	LA	関口 博之	2	前半でコンピュータを活用した人文科学系の研究事例の紹介を行い、後半で人文科学研究へのコンピュータの具体的な利用法について講義する。

	政策	前期集中	知識マネジメント論	GP	稲葉 光行	2	人文・社会科学領域で用いられる知識資源を、効率よく整理・保存・共有するための Web 技術について学ぶ。
	文	前期	統計解析演習	L	足立 浩平	2	基本的な記述統計法を学んだ後、群間の平均値の比較を目的とした推測統計法を学ぶ。
	文	後期	統計解析演習	L	足立 浩平	2	多変量解析の諸方法を学ぶ。
	文	後期	日本文化研究(演習)	LA	千田 稔	2	鷲田清一著『京都の平熱』(講談社、2007年)をテキスト(コピー配布)にして、各受講生は、関心のある部分を担当して、現地を調査して報告する。従来の歴史、文学を中心とする京都学からの書き換えを試みる。
	文	前期	日本文化研究(演習)	LB	千田 稔	2	大久保喬樹著『日本文化論の名著入門』(角川選書 2008年)をテキスト(コピー配布)にして、各受講生は、関心のある部分を担当して、日本文化論を批判的に検討し、受講生が互いに議論する。
	文	後期	日本文化研究(演習)	LA	大西 秀紀	2	明治・大正・昭和初期の日本のレコード文化について学び、実際にSPレコードに触れ、その歴史的録音をデジタル化する具体的な手法を体験する。
	文	前期	日本文化研究(講義)	LB	千田 稔	2	テーマ「『場』の記憶装置とアーカイブ 日本先史時代～近世」 思想や歴史あるいは文学、芸能においても、「場」がなくては成立しない。もっとも基本的な人間の行為を支える「場」の記憶を多分野の資料(写真・絵画・地図・テキスト・口承・音声など)の中からよびおこす方法について試みる。
	文	後期	日本文化研究(講義)	LB	千田 稔	2	テーマ「『場』の記憶装置とアーカイブ 日本近代～現代」 前期と同じ視点から、もっとも基本的な人間の行為を支える「場」の記憶をよびおこすために、多分野の資料(写真・絵画・地図・テキスト・口承・音声など)の中から見出す方法について試みる。特に、現代日本に継承された正と負の歴史的モニュメントに注目する。
	文	前期	日本文化研究(講義)	LA	赤間 亮 他	2	文部科学省グローバルCOE「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」(立命館大学)では、21世紀COEにより蓄積した有形・無形文化財のデジタルアーカイブを活用して人文科学研究の深化をさらに進め、デジタル・ヒューマニティーズに基づいて、世界レベルでの共有と活用・流通を推進することを目的としています。 デジタルアーカイブは、世界に分散・散在している文化・芸術コンテンツの統合を実現する。文書・画像・音声・動画・モーショングラフィクスなどの異なる分野のコンテンツを情報処理技術により融合化し、他機関のDBも含めた有機的な関連付けによって、研究資料の質・量両面での環境革命を起こし、それによる研究内容の質的高度化につなげ人文科学研究の新しい視座を与えます。そして、地理情報システム(GIS)技術によって、異なる文化・芸術コンテンツの時・空間上でのコンテンツの可視化と重層化をさらに進めます。また、Web2.0などの双方向型ネットワーク環境を基盤に、より効果的な情報の公開・共有・活用が行われる研究ポータルを実現します。本講義では、その具体的な実践内容を、本拠点の事業推進担当者を中心にリレー形式で、教授いたします。
	文	後期	日本文化研究(講義)	LA	河角 龍典 他	2	文部科学省グローバルCOE「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」(立命館大学)に関わる研究内容を、コーディネータのもとで、事業推進担当者や学外の研究者をゲストで呼び出して、セミナー討論形式で実施する。
	文	前期	博物館コミュニケーション論	L	井守 徳男 他	2	博物館・美術館の伝統的なものや最新のものの略歴と現状について授業するとともに、博物館・美術館

							の目的、役割、および将来像について考える。
	理工	前期	文化遺産保存計画論	00	益田 兼房 他	2	長い歴史のなかで形成され保存されてきた建築土木遺産は、現在では世界遺産条約や我が国の文化財保護法の対象として保護され、現代社会のなかで不可欠な文化的意味を持っている。しかし、この文化遺産保護という仕組みができたのは、近代という時代が要請したからで、19世紀半ばの国民国家の形成と深く関わっている。一方、成熟した市民社会となった現代では、生活の質の向上と関わる都市計画の重要な政策の一部ともなり、また特色ある町づくりの貴重な資源ともなっている。文化遺産とは何か、我が国の世界文化遺産を中心に、社会のなかでの意味を考えてみたい。
海外日本文化研究科目 (単位以上選択必修)	文	後期	人文科学の主要問題 (講義)	LD	TINIUS ELLIS	2	Introduction to Edo ehon and gafu The physical properties of Edo-period books Book production in the Edo period Ehon 絵本 and gafu 画譜 contrasted Marketing books Japanese books in the West Overview of the movement of books from Japan to the West: the Book Diaspora The importance of foreign collections in the study of the Edo book Current accessibility of Japanese books in western libraries and museums How to describe an Edo-period book The parts of the book What is a meaningful description of an Edo book? Interpreting the data in the kanki 刊記 Interpreting data in the okuzuke 奥付 Traditional bibliography Japanese models Western attempts Constructing a template for a text-based bibliography Strengths and short-comings of traditional bibliography Digitalisation and databases Technology and standards Requirements of a book database Constructing a template for an image database for books Strengths and shortcomings of image databases Future developments in the field
	文	前期	地理情報学研究 (講義)	L	LONGLEY PAUL	2	Along with the explosive growth of GIS over the last decade, a considerable increase in the availability and use of digital sources of spatial data has occurred. Nowhere is this more apparent than in the development and refinement of geodemographics small area measures of social and economic conditions that are useful for the delivery of private and public goods and services. Producing new and

							<p>useful information from spatial data requires a thorough understanding of their limitations and the methods used to process them.</p> <p>This course examines the scientific methods used to derive useful information, and geodemographics in particular, from spatial data. A companion to the books Geographic Information Systems and Science, Second Edition published by John Wiley &amp; Sons Ltd and Geospatial Analysis, Second Edition published by Troubador, the course is designed to present GIS concepts through exercises and examples with a particular emphasis upon the theory and practice of geodemographics. Students explore GIS theory related to the visualization, measurement and transformation of spatial data. An underlying theme is that uncertainty is an inherent characteristic of geodemographic data infrastructures: students learn how to identify uncertainty, measure it, and live with it.</p> <p>An important new development in socio-economic GIS is the development of geo-genealogy, which examines the geographic distribution, present and historic, of family names. This course will examine the present day distribution of selected Japanese family names, and examine some of the insights that this offers for understanding migration patterns and economic structure.</p>
	文	後期	地理情報学研究 (講義)	L	LOVETT ANDREW	2	<p>This course will focus on the application of Geographical Information Systems (GIS) to support decision making on environmental issues. Particular emphasis will be placed on such topics as facility siting, the modelling of land-use change scenarios, the visual communication of options, and facilitation of public participation in decision-making processes. Techniques covered in the course will include multi-criteria evaluation, simulation methods to represent uncertainty in results, cellular and agent-based land-use scenario modelling and 3D visualization. There will also be consideration of recent developments in public participation GIS (GIS) and the use of volunteered geographic information (VGI). It is intended that the course will provide a start-of-the-art review of this important area for GIS applications.</p>
	文	後期	日本文化研究(演習)	LA	CARPENTER JOHN T.	2	